

第四期長期計画調整計画策定委員会 地区別市民ヒアリング（東部地区） 会議要録

日 時 平成 20 年 1 月 25 日（金曜日） 午後 7 時から午後 9 時 35 分まで

場 所 商工会館 4 階市民会議室

出席者 田村委員長、酒井副委員長、加瀬委員、栗田委員、栗原委員、小原委員、前川委員、向井委員、村井委員

企画政策室長、企画調整課長ほか

参加者 22 名

【委員長】 今回の調整計画は、議会で議決された基本構想を踏襲するかたちになる。しかし、調整計画の意義は、ただ踏襲するだけでなく、この間の大変な状況変化をどのように織り込んでいくかであり、その点を重視した。

計画とは、行政が都市経営をどのように行っていくか、そのための一つのテキストと考えて良い。しかし、計画は基本的に市民のものである。テーマが市民の暮らしであるということが、一番基本だ。基本の二つ目は、計画づくりに市民が参加することだ。今回重視したことは、計画はわかりやすいものでなければならないということ。市が行っていることをいかに正確にわかりやすく伝えていくかが、非常に大切だ。また、今回、市民会議からの提案をはじめ、さまざまな市民提案をいただいた。同時に、行政との議論を重ねた。いろいろな角度から多くの議論を尽くしたことが、今回の計画づくりの特徴だ。いろいろな情報をとらえるだけでなく、考え、編集する、というかたちで策定作業を進めた。

計画原案は 4 つの章で成り立っている。第 1 章は「これまでの成果と情勢の変化」である。第四期長期計画における成果と、この短い期間に非常に多くの情勢の変化があったが、その点を記述した。計画とは将来のまちづくりに対する準備をするものだ。そのような気持ちを込めて書いてある。

第 2 章は「調整計画の基本的な考え方」である。私見だが、少し立ち止まって考えてみよう、という気持ちがあっても良いのではないかと。また、重点課題についてはできる限り多くの分野から、8 つのテーマについてまとめ、記述した。積極的に取り組んでほしいこと、考えてほしいことを盛り込んだ。

第 3 章は「施策の体系」である。一番生活に密着していく部分である。都市をマネジメントしていくため、あえて 5 つの分野を設定している。考え方、方向性、具体的なことを挙げてい

る。具体的なことに関しては、単に「実現する」という話だけでなく、これから準備をするため、「検討する」という話も入っている。

最後に第4章が「財政計画」である。計画にとって、非常に大切なものである。さまざまな事業の財政的な裏付けについて説明している。

【事務局】一点訂正がある。1月23日の市報特集号で調整計画原案の要約を掲載し、2月1日まで文書意見を受け付けると案内した。しかし、意見を受け付ける期間が短いという意見があったため、2月20日を締め切りと変更する。

【市民】期間延長は画期的なことだ。感謝する。

策定委員の中に副市長が入っている意味を重大にとらえていただきたい。地区別ヒアリング等で寄せられる意見の中には、中・長期ではなく、短期に対処すべき課題も含まれていることもあると思う。持ち帰っていただき、対処をお願いしたい。

また、調整計画に書けなかった課題についても、申し送り一覧のようなものを作るのも良いのではないか。

【委員長】おっしゃるとおりだ。大切なことである。

【市民】結論からいうと、夢がない。何か一本棒になるようなものがない。第四期長期計画で3つの目標を掲げているが、はじめの2つはわからないため、考え直した方が良い。「豊かな人間性を持った人たちを輩出しつづけることのできるまちをみんなで作ろう」といった、人づくりをしようということを市の柱にしたらどうか。このようなコンセプトを持ち、全てのことを進めていただけたらと思っている。

具体的な提案を申し上げる。住宅数の規制、全ての子どもに第二の親、夜間電力の利用といったことや、市政の改善提案を常時受け付けることなどを提案したい。

【市民】調整計画原案のパブリックコメントの締め切りについて、ページの下の方に記載があるが、もっと目立つように、ページの上の方に記載すべき。

学童クラブがコミセンに入っているところがあるが、子どもが大きな声を出し、体を動かすことができない。子どものことを考えると、検討すべきことだ。

高齢者の趣味・文化活動の推進について記載があるが、趣味に関するようなことは、受益者負担が適当だと考える。

また、評価を行う場合には、もっと現実を知っている人を入れ、地域が萎縮しないようなスタイルで評価を行ってほしい。特に福祉に関しては、文字や数字に出てこない部分が多く、そ

の部分の方が地域においては大事な場合もあると思う。

【委員長】評価についての指摘は、まさにそのとおりだと思う。

【市民】今回の市民参加方式は非常に良かった。さまざまな委員会等においても見習って、続けてほしい。特に良かったことは、市民が選んだ市民5人が策定委員になったことだ。また、策定委員会時、最後に傍聴者に意見を求めたことも良かった。社会環境全体が変化している現在、今までの方法、考え方を変えていくのは当然だ。行政も、反対意見があれば明確にし、市民の中に投げかけて議論するのも良いだろう。

各分野の記述に関しては、もっともなことが書いてあるため、良いと思う。しかし、より大事なことは、5つの分野の全体的なものをどのように進めるべきかである。財源は限られている。全部の事業を行うと財政は破綻する。

さらに大事なことは、最初に、考え方、成果、方向性など概念の体系図を是非入れてもらいたい。そうすれば、基本的な考え方や5年後の姿が見えてくる。全部読まないといけない、というのはあまり良くない。

また、市民会議からの提案には、一般的な概念とは違った概念でのものもある。そのような提案については、行政の側で既に実施済ということで処理しようとしているところがあったが、そういうことはなしで、今後は進めていただきたい。

【委員】これはということに関して、行政の側から実施済と説明されたもの等が多くあった。勉強不足のせいもあり、一步引いてしまうというか、突破できなかったと思う。今後、少し時間があるので、頑張る。

【市民】3つの目標は、少しわかりづらい。また、この目標が主体となっているということだが、施策とどう関連しているのかわかりにくかった。

また、各委員が、どのような考えで計画策定を行ったかを伺いたい。

【委員長】目標がわかりづらいということについては、本当にそう思う。概念を含んだ体系化についても、関連することである。しかし、目標は議会で議決されており、一つのかたち、一つのルールである。率直に言えば、今回の計画は「武蔵野の力と可能性を見出そう」でいいと思っている。しかし、ルールは守るべきである。

【市民】調整計画の中でも男女共同参画社会を推進するという題目があるにもかかわらず、学童の記載については疑問である。あそべえと学童クラブの統合について研究を進めるとの記述があるが、成り立ち、目的とも全く違う。統合はありえない。統合という文言については、削除願いたい。また、土曜日に関しては、開所というかたちで進めていただきたい。隣接地ま

たは学校内への移転についての記述は、大変ありがたい。

「青少年育成環境の整備」について、親世代が地域にかかわるよう、行政は、巻き込む、支援する、そのような発想で取り組んでいただきたい。

【委員】学童クラブとあそべえに関する記述については、何回も議論を行った結果、第四期長期計画の継承ということもあるため、統合という文言は残すこととした。統合について考え、細かい調査をしたうえで、統合ではなく、別々に土曜日を開所するという方向が出れば、またその時に検討すれば良いという結論になった。「子どもの土曜日の過ごし方について検討を行い」という書き方となっている。まず、親のニーズ、子どもたちの意見、土曜開所にかかる費用に見合う効果があるのか等、きちんと研究すべきであると考えている。

【委員長】男女共同参画社会についての記述があるにも関わらず、と言われたが、今の話に関連して、ベースになっている話である、という理解で良いか。

【市民】調査について、何か具体的な計画はあるのか。

【委員】親がしっかり検討していくということで良いのではないかと。行政に提案しても良いと思う。策定委員会として具体的な計画までは考えていない。「土曜日の過ごし方についての検討を行い」との記述をしているので、親が提案していくことではないかと思っている。

【委員】「統合」の文言を削除すると、結論が出たため、そこで話がおしまい、ということになる。「統合については今後も研究を進めていく」と、今後につなげていくような文章とした。

【市民】学童クラブは土曜日開所していたものを閉めた。三多摩で土曜開所していないのは、本市だけだ。土曜開所に関するニーズがあるのは事実だ。ニーズがあったら開けるのが普通だと思うし、どうやったら開けられるかということを考えるのが筋だろう。

【委員】あそべえが本格的に稼動したのは平成 17 年であり、その前は土曜日に学童クラブは開所していた。同じようなタイプの子どもの遊び場ということで、あそべえに統合すれば良いという考えは、安易であるし、おかしいと思っている。統合について、研究する必要があるかと思う。土曜開所に向けて、前向きに検討してほしいと考える。計画原案では、わざわざ「子どもの良質な発達環境の確保と、親の子育てと仕事の両立支援の双方の観点から」と付け足して記述した。終了の時間についても議論をしたが、これがぎりぎりの線ではないかと思うが、少しは前進したのではないかと。

【委員】行政は中間的多数に目がいき、一部の少数者を排除してしまうという傾向がある。健康・福祉の分野でいえば、後期高齢者医療制度の導入後、保険料が払えないと医療が受けら

れない、という問題が起きる。そういった生活困難な人をカバーすることについて検討が必要だ。声を出せない人の声をどう市政に反映させていくか、市民の運動においても踏まえていく必要がある。このような問題意識についていろいろなところで足跡を残した。少数の切り捨てられそうな人が、本人も含め、周りの人が声をあげていくことが、市が良くなるために重要だと思っている。

【委員長】策定員委員会の議論において、特定の意見を押しつけたというようなことは全くない。1つの施策について、たくさんの意見があって、都市の問題というのはすべて一本の方程式で解けるような話ではない。今の成熟社会の中での都市計画づくりは、多元連立方程式のようなものをどう解いていくかということだ。

ただ、今回で結論が出せないことというのは、非常にもどかしいこと。市民の方に託したいということと、行政でも議論をしていただきたいと願っている。問題意識を維持していただくことが市民の力だと思っている。

【市民】「生涯学習施策を総合的に推進するための「生涯学習計画（仮称）」を策定する。」との記述があるが、どのような内容か。

また、境南小学校のふれあいサロンについて、どのようなものか、簡単に説明いただきたい。

【委員】市には生涯学習に関する総合的な計画がない。個々には立派な生涯学習の事業がなされているが、一元化されていない。窓口を一元化するためにも、総合的な生涯学習体系をつくっていかうということ。

【市民】生涯学習という言葉そのものが非常にあいまい。漠然としているカテゴリー。整理をすることは大事だと思うが、個々の活動が規制されるようなことはよくない。

【委員】生涯学習は大きな概念であり、学校教育、学校教育以外の教育である社会教育も含まれる。また、個々人が趣味で行っていることも含まれる。学習、教育の全てが生涯学習である。

もう1つ大事なことは、生涯学習はやり直しのきく学問であるということ。今の新しい教育を身に付けるという意味も含まれており、これから大切なことだと思う。

【委員長】先ほど、趣味の話は受益者負担でという意見があったが、その考え方に賛成である。

公が生涯学習の機会をつくる場合に、どういう気持ちで、どういう論理で、どこまで公がかかわるか、ということを整理すると、豊かな生涯学習の機会が提供できると考える。総合計画といってもおおげさなものではなく、どういうところまで公が関わるのか、関われるとすれば、武蔵野なりの風土と資源の中でやっていくべきだということを書くべきだと考えている。

【事務局】ふれあいサロンは、境南小学校の特色ある教育活動の一つ。プレイルームを使用し、高齢者の講座を実施しながら、休み時間、給食を活用して児童との交流を図っている。

【市民】市報でALT（外国語英語指導助手）募集の記事を見たのだが、公立小学校では、5・6年生に英語を教えることになっているのか。

【事務局】今年度、モデル校3校で英語活動を実施している。今後、全ての学校の5・6年生を対象に実施していく、という計画がある。

【市民】高齢者をプールしておけば、子どもたちの見守りなど、ある程度役に立つのではないか。

【委員長】そのような話は、いろいろなまちで、いろいろなかたちで進めている。しかし、本市では、そういった当たり前のことが、意外とできていない。

【市民】現在、中学校給食はどの程度考えられているのか。福祉の一部として考える必要がある。

【委員】19年6月に中学校給食実施の方向性が決定されている。全員が給食ということではなく、弁当持参との選択制を導入していく方向だ。

【市民】「社会を取り巻く情勢の変化」として挙げられた影響要因のうち、調整計画において、特に変わったものは、地方分権の進展と、環境問題の深刻化である。とくに、地方分権の進展については、行政は考え方を180度変え、自発的・自主的に施策を考え、実施していく必要がある。経済、環境、コミュニティ、安全・安心等の分野において、特区制度を申請しても良いのではないかと思っているが、施策の体系においては全く記述されていない。

重点課題であるコミュニティ施策について、コミュニティセンターを「最大限に活用し、」としか記述していないが、それは当たり前のことだ。ぜひ、もう一步越え、検討してほしい。コミュニティセンターは他の部門との関連も多いが、そのあたりもあまり書かれていないが、ぜひ入れてほしい。

【委員長】コミュニティは歴史があり、多くの人がかかわり、また、役割が広がっている。未来に向けて、どうかたちであつたら良いか、示唆はしているつもりだ。

特区制度については随分と議論になった。都市内農業や吉祥寺の自転車問題、環境のテーマもあるだろう。政策選択の一つとして、事業方式も含めて、いろいろと考えていくべきだろう。

【市民】「特区制度の導入の検討」「PFIの導入」等、具体的なイメージとなるような表現になっていない。

【委員】行・財政分野にPFI等の記述があつたが、具体的でわかりやすくするため、日本

語で書くことを心がけた。そのため、ぼやっと見えてしまう結果となった。

【委員】環境やコミュニティについては、大きな問題であり、策定委員会のなかでも取り上げられてきた。そのため、「社会を取り巻く情勢の変化」「調整計画全体に関わる基本的な視点」「調整計画の重点課題」などに書き込みがされたと思っている。

私は、この計画は参加、協働、市民同士の助け合いなどに近づいていくための一つの手がかりだと思いながら、策定に携わってきた。環境やコミュニティの分野などは、市民同士、行政と市民が一緒につくっていく分野だと思っている。何かをつくっていくプロセスの中に入っていき準備をするための計画であつたら良いと思っている。書き込みが少ないという意見もあったが、そのような書き込みきれなかった部分については、一緒に書いていこうという思いで、計画策定を行っている。

【委員】都市基盤分野に関しては、八コモノをやめた段階ではない。動いている武蔵境、投資が必要な吉祥寺、三鷹圏のまちづくりもしなければならない。下水道、水道においては施設の更新など厳しい状況だ。公会堂の建替えなど夢のある話があるかもしれないが、そういったことを行う前に、しっかりとした計画を立てる必要がある。市民として策定委員となり、様々な情報を得て、何を皆に伝えるべきか、市がどのような方向にいくべきか考えた。また、第四期基本構想の3つの目標は重くのしかかり、いろいろ考えさせられた。

【委員長】この計画の一番大切なところは、リスク管理をどうできるかである。明るい方の話は市民が自由にやっていけば良い。リスクはあらゆるところから取り除いて、それを保障していくまちをつくっていくことが基本である。リスクは見えないものが非常に多い。リスクを整理していく必要がある。この計画でこうして欲しいということが、受け入れられていないことが多くあると思うが、理解していただきたい。この計画に求められていることは、双方向で、行政も市民もお互いに理解し合うということだ。

【市民】生涯学習施策の拡充について、3ページほど記述があるが、ぴんとこないというか、骨格が伝わってこない。公がかかわる生涯学習は、個人の学びだけでなく、ともに学ぶというところだと思う。本市では非常に弱い部分だ。明るい話でもあるし、もう少しわかりやすく、書き込んでいただきたい。

【委員】大きな柱立てが必要なことはおっしゃるとおりであり、まず、具体的な総合計画を立てることが必要だ。そのため、「生涯学習事業の体系化・計画化」という項目を新たに立てた。

【市民】防災対策について、木造住宅等がつぶれないよう、最低限の補修ができないか。次

に家具の転倒を防ぐ施策が必要だ。

安全、コミュニティの分野など行政のタテ割組織のなかで対応しているため、つながらない。市民の生活は行政のタテ割組織とは関係なく、一連のつながりをもっている。横をつなぐような組織が必要だ。

また、課長や担当職員は、人事異動により、3年に一度くらい変わってしまう。個別計画によって最終的な個人個人のタスクが決まっていない。課長などが変わり、違う話の方向に行かないよう、計画をブレイクダウンして、細部までつくっていく必要があるのではないかと。

【委員】組織の改変、柔軟な組織体制など、いろいろと意見を聞き、検討したが、結果として、タテ割をやめることは、今の段階では、現実問題としてできないということがわかった。この問題にどう対応すべきかを「自ら目標を設定し、自主的に仕事に取り組み、生活感覚溢れるサービスを提供できる職員」という記述に集約した。これは、タテ割をこわしていくための一つのことばである。市民ももっと勉強し、ポジティブな提案をしていくべきと思っている。

【委員】地域担当制やライフステージに対応できる組織のあり方などについては議論してきたが、かなり大きな話である。今回は、基本構想の枠内で、マイナーチェンジというか、ファインチューニングというかたちで、何ができるか考えた。

【委員長】本日は、東部地区での実施だが、地域の課題についての議論はあるか。

【市民】国・都などで神田川、隅田川等の水質を良くしようという動きがあり、水源地である井の頭池、善福寺池など、武蔵野地域も大いに関わってくる。武蔵野市や都内は合流式の下水道であり、大雨が降ると雑排水が上流から下流へ一挙に流れていく。さらに、下水管が老朽化している部分もあり、直していく必要がある。ある日突然条例などができ、下水道の状況が変わる可能性がある。このあたりについて、議論はなされたか。

井の頭公園の自然環境の保全が必要だ。環境的な側面、産業・経済的側面を考えれば、何らかの施策を実施すべきだ。どの程度議論されたか。

【委員】下水道について、長期計画では分流式の検討について書かれている。現在は、下水道総合計画を策定中のため、踏み込んだかたちでは書いていない。水害対策も重要であり、現在進めていることと、違うかたちで行っていく必要が出てくるかもしれない。また、雨水を浸透させることは、ある部分非常に重要だ。

【委員長】井の頭公園については、都市観光の推進における資源の問題や吉祥寺グランドデザインなどに関連がある。そういったなかで考える必要があるが、井の頭公園総体を全体的にどうするとは書いていない。



【市 民】三鷹市との連携について、議論があったか。

【委員長】三鷹市と関連が少ないのは不思議でならない。具体的なはなしとしては、出てきていない。駐輪場の問題などルールを同じにして考えた方が良いと思う。三鷹市とは大切なところで接している。

【委 員】三鷹市とは良い意味でライバル関係にある。行・財政分野で、一般的な書きぶりではあるが、近隣市区などとの広域連携についての記述がある。もう少し、広域連合や一部事務組合などをうまく使い、上手に、効率的に行政運営を行うことができる分野があると思う。

【市 民】歴史的にはいろいろ張り合う部分もあったかもしれないが、これからはお互いに声をかけていった方が、効率良く行政運営ができるし、さまざまなメリットがあると思う。

【委員長】むしろ民間の活動のほうが進んでいる。そういう方向から動いていくのだろう。今後残された大きな課題だと考える。

【市 民】協働の関係で、ワンストップ化を検討しているとのことだが、それで行政のタテ割りが改善されるのか。

【委 員】市民協働ハンドブックを作成しているが、市民協働においてワンストップで相談・対応できるような協働の窓口が必要と考えている。

市民パートナーシップを盛りあげようということで、まちづくり条例の制定や、自治基本条例の検討を打ち出している。反対の意見もあるが、調整計画策定に関しての市民の積極的な参加、そういううねりのようなものをさらにもっと高めていくために、今、検討を始めなければという認識である。

【委員長】急いで進めるということではなく、皆が納得できるようにじっくりと、十分に検討していただきたいことだと思っている。

【市 民】重点課題での子育て家庭への支援の記述や、健康・福祉分野での障がい児への支援の記述については評価している。これらの記述の内容を具体的にしていくのは、第三次子どもプラン武蔵野だと思う。福祉総合計画とあわせて早急に、保護者または当事者が入れるようにして策定してほしい。

【委員長】当事者能力が非常に大切だということは感じている。いくつかは、当事者が入るべきかもしれない。

【市 民】東部地区は、子ども関連施設が不足している。既存の施設を活かしての子育て支援、青少年の居場所などについて、検討はなされたか。

【委員長】具体的な施設についての議論はあまりなかった。東部地区に関しては、吉祥寺に関

するあり方の議論は、かなりあった。

【委員】先ほどの、どのような考え方のもとに計画に至ったかという質問について。子ども・教育分野については、第四期長期計画の理念を受け継いでおり、それを前文に明記した。子ども・教育といった場合、核になるのは、家庭であり、家族である。新たな少子化対策の視点を取り入れた施策を考えながら進めた。少子化を是正する視点は大事であり、各所で考えながら施策に反映させた。働く家族が安心して、子育てと仕事が両立できるよう、様々なことを洗い出し、計画におとしていった。

教育については、第四期長期計画に立派な理念が掲げられた。その理念をさらに進め、拡充するかたちで施策を書き込んだ。

【委員】市民会議から選出された策定委員と市民会議の委員の思いをどう計画の文言にするか整理する役、という気持ちで参加している。あまり自分の思いは出さないようにしている。これは市民の計画であるし、計画を学識経験者がさらさらと書くような時代ではない。この計画で明るいところは、策定プロセスにおいて市民が参加したことだ。この計画策定において、多くの市民が自分の思いを語った。金をかけなくてもできることは、まだまだ多くある。そのあたりの知恵を寄せ合うのが調整計画だと思っている。

【委員長】「都市の窓を開こう」というのは、窓を開けたら違うものが見えた、ということかなと思う。武蔵野市を外側に晒してみたとき、どのように見えるのかについては、非常に豊かな議論を行ってきた。このレポートよりも厚いものがたくさんあり、市民、議会、行政にも感謝している。

【委員】市民会議などを通じて、市民のニーズが吐露された。本来、市議会議員は市民のニーズを吸い上げるのが仕事であり、さまざまな会議に傍聴に来ても良かったのではないかな。もう少し勉強してほしい。このような会議はニーズを吸い上げる良い機会だ。今後、是非、このような会議を傍聴してほしい。

【委員長】本日は最初のヒアリングで、いろいろと提案をいただいた。必ずしもそれを受けて修正という話ではないと思うが、出来る限り皆さんと一緒にこの計画をケアしていきたいと思っている。